

平成30年度 学校自己評価システムシート (大川学園高等学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	「チーム大川」として、「福祉マインド」による教育活動を展開し、生徒・保護者・地域等からの信頼を得る ①「学び直し」により、どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、着実に学力を身につける ②深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現を図るとともに人格の完成を目指す ③地域と連携して、開かれた学校づくりをすすめるとともに、安定した生徒募集を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	事務局(教職員)	4名

学校自己評価			年度評価		学校関係者評価	
年度目標	平成30年5月16日実施	P(具体的方策)及びD(実行) ◎新規 ○継続	C(評価)	達成度	A(次年度への課題と改善策)	
番号	現状と課題				実施日 平成31年2月21日	
学校関係者からの意見・要望・評価等						
1	<p>【現状】</p> <p>○1学期当初校内実力テスト(全学年対象、国数英)において、義務教育段階の学習内容の定着が不十分である生徒が50%を超えている。保護者から「学び直し」への期待の声が多く聞かれる。</p> <p>○昨年度大学・短大への進学者7名。成績上位群の生徒が大学進学等も含めた高度な教育機会への進学意欲が低い。</p> <p>○昨年度全校生徒の授業満足度は80%というものの、教員の自己評価では「主体的・対話的で深い学び」には不十分である。</p> <p>【課題】</p> <p>→学習の「学び直し」体制の構築</p> <p>→ICT機器を個別支援に活用する学習指導の実践研究</p> <p>→他校にはない魅力ある授業づくり</p> <p>→「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の工夫・改善</p> <p>→各種検定の活用推進と合格者増加</p>	<p>◎月曜日を「学び直しの日」として、部活動なし→「ステップアップ講座」の開設(外部講師、全教員による指導)</p> <p>◎学習支援へのタブレットの活用とその効果の研究(教育公務員弘済会教育研究助成に申請予定)</p> <p>◎SDM(システムデザインマネジメント)授業の継続・充実(慶應義塾大学大学院との連携)</p> <p>◎福祉科現場実習の実施方法の改善</p> <p>◎大川学園医療福祉専門学校との合同授業の実施(福祉科)</p> <p>◎普通科選択授業(フィットネス)にミュージカル教育の導入(ソニーミュージックとの連携)</p> <p>○生徒の基礎学力を的確に把握するための実力テスト継続実施(毎学期1回)と結果の活用</p> <p>○各種検定合格者増加に向けた指導方法の工夫</p>	<p>【評価指標】</p> <p>授業満足度90%以上(全生徒への授業アンケート)[昨年度80%→本年度81%]</p> <p>・ステップアップ講座→年間19回/5講座(国1、数2、英2)/外部講師6名</p> <p>・タブレットの購入(13台)と活用→授業・部活動・行事</p> <p>・SDM授業→慶應義塾大学大学院・よしもとクリエイティブ・エージェンシーとの連携</p> <p>・高専(高校・専門学校)合同授業→4回実施</p> <p>・ミュージカル教育(選択授業フィットネス)→ソニーミュージックエンターテイメントとの連携・学園祭での成果発表</p> <p>・実力テスト→毎学期実施・結果の活用</p> <p>・検定合格者増加→事前特設講座の成果</p>	B	<p>○進学希望者75%超に定める学びづくり</p> <p>・進学希望者向け講座の新設</p> <p>・検定対策講座の充実</p> <p>・ステップアップ講座の継続、充実</p> <p>・家庭学習に結び付く授業</p> <p>・タブレットの活用推進</p> <p>○特色ある学びづくり</p> <p>・SDM、ミュージカル授業の継続、充実</p> <p>・実務者研修終了の取得できる福祉課カリキュラムの研究</p> <p>・福祉科高専合同授業の推進</p> <p>○新教育課程完全実施に向けての準備</p> <p>・教育課程検討委員会の設置とカリキュラムの検討</p>	<p>・「学び直し」というキーワードを大切に教育活動を評価。特にステップアップ講座の今後に大きな期待。苦手克服だけでなく、長所をさらに伸ばす深く専門的な学びの場面をつくらうとしていることも評価できる。</p> <p>・シャイな生徒が多い現状の中で、個を大切に指導やSDM、ミュージカル学習等を展開していることを高評価。学習を通じて生徒一人一人が自信を得ている様子がうかがえる。(マスクを外す生徒が増えてきた。)</p> <p>・福祉教育では専門学校との合同授業を展開。このことは生徒の学ぶ意欲を高め、内部進学を増加させることにもつながっている。</p>
2	<p>【現状】</p> <p>○昨年度、生徒保護者から学年・職員による指導の差を指摘されることがあった。</p> <p>○数年前と比較して問題行動は減少しているものの、SNSによるトラブルが多い。また自分に自信がなく、人との関わりに不安を抱える生徒が多い。</p> <p>○3月末進路決定率は96.5%(進学64.9%・就職31.6%)であるが、その生徒に見合った進路先になっているかの見極めが不十分となっている。</p> <p>【課題】</p> <p>→新たなキーワード「福祉マインド」(＝一人一人を大切に教育)による生徒指導体制の再構築</p> <p>→道徳教育の導入</p> <p>→小さな変化に気づき共有できる、フットワークの軽い、仲のよい教員集団による日常指導の継続</p> <p>→3年間を見通した計画的な進路指導計画の見直し</p>	<p>◎学年指導格差の解消等のための学年主任会の新設</p> <p>◎生徒指導部に教育支援プログラム担当の新設</p> <p>◎LHR(ロングホームルーム)の時間に道徳授業初実施(「道徳教育元年」)</p> <p>◎「道徳教育元年」記念イベント開催＝歌う道徳講師「学校ライブ」の開催(12月19日・飯能市市民会館)</p> <p>○登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導の毎日実施</p> <p>○チャイム着席、挨拶の励行を随時指導および休み時間・授業中の校舎内巡回の実施</p> <p>○問題行動防止を目的とした担任指導・学年集会を有効に実施</p> <p>○安全な教育環境の整備を目的とした日常点検・設備点検(第2校舎＝毎学期、第3校舎＝毎月)の実施</p> <p>○スクールカウンセラーとの連携を重視した教育相談の充実</p>	<p>【評価指標】</p> <p>○頭髪服装指導件数ゼロ[→7件]、年間遅刻者数500人以下[→578人]、交通事故件数ゼロ[→1件]</p> <p>○問題行動[昨年度28件→本年度11件]・転学者[昨年度8人→本年度2人]の減少</p> <p>○チャイム着席100%[昨年度60%→本年度70% ただし5分前全員入室]</p> <p>○進路決定率95%[→98.5%(進学78.8%就職19.7%) 2/21現在]</p> <p>進路満足度90%(学年末、3学年アンケート)[→83.8%]</p> <p>・学年主任会議→年間2回実施</p> <p>・教育支援プログラム担当→特に年度当初の生徒対応に成果</p> <p>・LHRにおける道徳授業一年間のべ14回(うち6回はゲストティーチャー招聘)</p> <p>・歌う道徳講師 大野靖之氏 学校ライブ→12月19日 飯能市市民会館大ホール→観客500人</p> <p>・きめの細かい生徒指導</p> <p>・教育環境の整備(仲町校舎花壇等)</p>	B	<p>○社会人の基礎基本の徹底</p> <p>・「3つの基本」の指導強化→時間を守る/人の話を聞く/素直に聞き入れる</p> <p>・遅刻者数減少への取り組み強化→遅刻者400人以下</p> <p>・SNS活用マナー教育の推進</p> <p>○ルールとリレーションの学び直し</p> <p>・生徒主体の割合を高めた行事等の推進</p> <p>・担任等による道徳授業の実施</p> <p>・道徳的価値を意識した行事づくり</p>	<p>・生徒指導面については良好な状態。「市内をパトロールしても本校生徒を補導することはない。」とのこと。</p> <p>・遅刻は限られた生徒が繰り返している状態。個々の問題ではあるが、学級、学年、生徒会等がアイデアを出し合い、心をひとつにして、遅刻を減らすことを目指したい。</p> <p>・進路状況。進学する生徒が増加している。「学べき時にはしっかり学んで、自信を手に入れよう」とする生徒の思いの表われか?</p>
3	<p>【現状】</p> <p>○大川学園といえば「ボランティアを頑張っている」という評価が地域に定着してきているものの、その他で頑張っている生徒の取組に対する評価があまり届いていない。</p> <p>○全日型(週5日登校)はここ2年、入学者が定員80名を充足しているものの、併願者の入学者数は県内、都内の就学支援状況、入試倍率の高低などで予測がつきにくい。</p> <p>○生徒募集・個別相談に当たる常勤教職員15名中7名が本校勤務2年未満(5/1現在)である。</p> <p>【課題】</p> <p>→引き続き、多様なボランティア活動を推進</p> <p>→生徒の頑張り、学校の取組について発信力を強化</p> <p>→学校外の方々に学校に足を向けていただく機会の増加で学校理解促進</p> <p>→新設の法人本部広報室と連携した戦略的な生徒募集、教員の広報力等のアップ</p>	<p>◎部活動指導への外部コーチの導入(ソフトテニス部、剣道部)</p> <p>◎女子サッカーチーム「エルフェン埼玉」主催試合へのボランティア参加</p> <p>○飯能市周辺行事へのボランティア参加者増加…飯能まつり(夏・秋)、飯能新緑ソーデーマーチ、震災復興元氣市、天覧山清掃、巾着田菜の花まつり等</p> <p>◎募集戦略…学校説明会参加者増加は入学者増加!学校の魅力アップ!伝え方アップ!</p> <p>○日常的授業公開および2週間の学校公開期間(年間1回)の実施方法・公開内容等を工夫</p> <p>○市内外中学校への出前授業の実施および上級学校訪問の積極的受け入れ</p> <p>○中学校訪問等による積極的な生徒募集活動の実施</p> <p>○学校ホームページおよび学校説明会の工夫</p>	<p>【評価指標】</p> <p>○福祉科40名、普通科40名定員充足率100%[→福祉科32名、普通科31名 2/21現在]</p> <p>○学校説明会参加者の増加30%(昨年度582人→本年度640人 10%増加)</p> <p>・部活動→外部コーチの導入・全国定通大会日本一(埼玉県チームの一員として)女子ソフトテニス、女子剣道</p> <p>・ボランティア→飯能市周辺行事等+「エルフェン埼玉」との連携(のべ29回参加人数475人)</p> <p>・生徒募集→学校説明会の工夫(作文教室、数学教室、面接教室)、出前授業等</p> <p>・授業公開、学校公開→来校者わずか</p>	B	<p>○地域行事への積極的参加</p> <p>・飯能新緑ソーデーマーチへの全校生徒参加</p> <p>・ボランティア協力の推進</p> <p>○広報室と一体となった広報・募集活動の推進</p> <p>・広報戦略の見直しと実行</p> <p>・見ごたえのある学校案内の作成</p> <p>・広報・募集活動におけるタブレットの活用</p> <p>・ホームページの適時適切な更新</p>	<p>・地域に根付き、地域に支えられて発展するのが本校の姿。この思いを今後も大切にしたい。</p> <p>・ボランティアは本校の一番の強み。中学生時代までにできなかった貴重な経験を、心を耕している。地域に貢献できる喜び、皆様に期待していただける喜びが、生徒の自信につながっているようだ。</p> <p>・一丁目町内会と連携することを通じて、日本語学校の学生との交流も生まれている。また、本年度は駿河台大学の学生ボランティアを積極的に受け入れた。これらの取組を今後さらに発展させていくことを期待する。</p>